



(写真) 統一プラットフォーム “2025年1月10日にゴンサレス候補が大統領に就任することを支持”

2024年12月9日(月曜)

政治

- 「[国連 OHCHR カラカス支所 活動再開](#)」
- 「[トランプ政権 国務副長官にベネ関係者任命](#)」
- 「[マドゥロ大統領 制裁対象者21名に勲章](#)」

経済

- 「[ヌエバエスパルタ州経済界](#)
～合弁会社による電力システム改修を提案～」
- 「[縫製業 生産量は前年比12%減](#)」
- 「[マドゥロ大統領 石油・鉱物・建設業が好調](#)」

社会

- 「[ベネズエラ 現在のパスポート発行情形](#)」

2024年12月10日(火曜)

政治

- 「[大統領就任日まで残り1カ月](#)
～PUD・MCM ゴンサレス大統領就任支持～」
- 「[マドゥロ大統領 1月10日に政治集会召集](#)」
- 「[コロンビア ベネズエラとの外交関係維持志向](#)」
- 「[拘束中の軍事専門家 骨折で病院にて治療](#)」
- 「[マドゥロ政権 野党活動家を拘束](#)」

経済

- 「[副大統領 中国のソフトウェア企業を視察](#)」
- 「[2024年 中国から30億ドルを輸入](#)」
- 「[Cedice 11月のインフレ率は14.47%](#)」

2024年12月9日（月曜）

政治

「国連 OHCHR カラカス支所 活動再開」

「ベネズエラ・トゥデイ No.1150」で紹介した通り、マドゥロ政権は、24年2月から閉鎖していた国連高等弁務官事務所（以下、OHCHR）のカラカス支所の再開を許可すると発表した。

12月9日 OHCHR の Volker Türk 弁務官は、「ベネズエラでの活動を徐々に再開している」とコメント。

「我々は、これまでベネズエラで行っていた活動ができるようになることを期待している」「囚人の状況視察、司法のモニタリング、法律への助言などである」と言及。

また、政治犯の問題について

「複数の解放が確認された」「しかし、更なる解放を期待している」「これはとても重要なことだ」「また、異なる政治アクターがベネズエラの未来のために団結することを期待している」と述べた。

2025年1月の大統領新任期開始日を前にベネズエラで再び政治的な緊張が高まることは明白である。このタイミングで再び国連 OHCHR が活動を停止することは十分に考えられるだろう。

「トランプ政権 国務副長官にベネ関係者任命」

米国のダニエル・トランプ次期大統領は、国務省のナンバー2である国務副長官にクリストファー・ランドー氏を任命した。

ランドー氏は2019～21年まで駐メキシコ大使を務めた弁護士である。

トランプ次期大統領は、国務長官にキューバ移民を親に持つマルコ・ルビオ議員を抜擢しており、国務省のナンバー1、ナンバー2が南米にゆかりのある人物の起用ということになる。

トランプ氏はメキシコ国境経由で流入する不法移民への対応を重視しており、これらの問題に注力したいとの意思が垣間見える。

なお、ランドー次期国務副長官の父親（George Walter Landau 氏）は、1982～85年の間、ロナルド・レーガン政権において在ベネズエラ・米国代表大使を務めた人物。

ランドー氏はハーバード大学在籍中にベネズエラと米国の政治関係に関する「石油自由主義の繁栄と没落：米国とベネズエラ社会主義政権との関係」という論文を執筆し、Hoopes 賞を受賞しており、ベネズエラに所縁（ゆかり）のある人物と言える。

ランドー氏は、7月28日後の抗議行動で、故チャベス元大統領の銅像が破壊される映像を共有し、

「私はベネズエラからこのような映像が流れていることに感銘を受けている」「選挙を略奪する行為に怒り、偉大なベネズエラ国民が立ち上がった」「マリア・コリナ・マチャド氏の勇敢さに鼓舞された」「ベネズエラ国民は恐れを無くした」とコメントしている。



（写真） Gage Skidmore 氏撮影

“クリストファー・ランドー氏（当時在墨米国大使）”

「マドゥロ大統領 制裁対象者21名に勲章」

11月27日 米国政府は、大統領選を奪い、抑圧に加担したとして、マドゥロ政権関係者21名に対して個人制裁を科した（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1148](#)」）。

12月9日 マドゥロ大統領は、米国から制裁を受けたベネズエラ軍人・高官ら21名に勲章を授与。

「米国からの制裁は、高い倫理観を持つ証明であり、名誉と認識するべきものである」との見解を示した。

また、野党グループを批判。

野党過激派が、シリアで起きている状況のようにベネズエラでも紛争を起こそうとしていると指摘。

「帝国主義の右派ファシストは、ベネズエラに対してあらゆる政権崩壊マニュアルを実行してきたが、警察と国軍の完ぺきな連携により、平和を維持している」とし、治安維持部隊に対して、これからも油断することなく平和を守るよう呼び掛けた。



(写真) 国営放送局 (VTV)

“米国の制裁対象者に勲章を授与するマドゥロ大統領”

経 済**「ヌエバエスパルタ州経済界****～合弁会社による電力システム改修を提案～」**

11月11日 モナガス州エスキエル・サモラ市 Punta de Mata 地区にある PDVSA の「Operativo Muscar コンプレックス」のガスダクトにて火災が発生した（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1141](#)」）。

同火災の被害は大きく、特にヌエバエスパルタ州に電力を供給する発電施設への天然ガス供給が停止したことで、同州で深刻な停電が起きており、現地住民および経済に大きな影響を与えている。

「ベネズエラ経団連 (Fedecamaras)」は、ヌエバエスパルタ州の電力問題を解決するためには投資が必要で、民間セクターとベネズエラ政府の合弁会社を発足する必要があると提案した。

Fedecamaras とマドゥロ政権および故チャベス政権は、犬猿の仲であり、2002年に起きたクーデターは Fedecamaras が主導したものだ。その Fedecamaras がマドゥロ政権に対して、合弁会社の発足を求めるというのは歴史が変わった印象を受ける。

ヌエバエスパルタ州の「フリーポート生産商工会」の José Gregorio Rodríguez 代表は、「企業グループは電力問題を解決するための投資提案を用意している」と言及。

「民間セクターが協力すれば、1500メガバイトの電力を発電することが可能で、他の地域から電力を調達するのではなく、他の地域に電力を供給することも可能になる」との見解を示した。

「縫製業 生産量は前年比12%減」

「縫製産業商工会」の Roberto Rimeris 代表は、2024年のベネズエラ縫製業の生産について、前年比12%減だったと述べた。

なお、2024年第3四半期までの同国の衣類・皮革製品の市場自体は、前年同期比6%増としており、市場が拡大した一方で、国内生産は縮小したという状況である。

Rimeris 代表は、生産が伸び並んだ理由について、「輸入品の増加」「高額な税金」「インフォーマルセクターの拡大」などを挙げている。

非正規ルートで輸入される衣料品は税金を支払っていない状態で販売されるため、ベネズエラ国内で生産される正規の衣料品よりも価格競争力が高いという。

Rimeris 代表は、税金が高すぎてフォーマルセクターで活動している企業は厳しい状況に陥っていると指摘。国内生産を拡大させるための税制改定を要求した。

「マドゥロ大統領 石油・鉱物・建設業が好調」

マドゥロ大統領は、2024年の国内経済状況について言及。石油・鉱物・建設業で高い成長が確認されたとの見解を示した。

マドゥロ大統領によると、鉱物セクターは前年同期比21%増、石油セクターは同14%増、建設業は同25.9%増だったという。

なお、Fedecamaras が加盟企業に行ったアンケート調査（24年第2四半期）によると建設業は、前年同期比2.2%減となっており、Fedecamaras の公表値と大きく異なる。

なお、石油セクターと鉱物セクターは政府系企業が専有しており、民間経済団体である Fedecamaras は基本的に関与していない。

他の産業に関しては、「農業」が6.2%増、「製造業」が4.6%増、「商業」が6.2%増。

家庭の消費額は、前年同期比13.3%増。

融資額は同87.6%増。

インフレ率は、過去25年で最も低い水準にあると説明した。

社 会**「ベネズエラ 現在のパスポート発行情形」**

移民問題に詳しい弁護士 María Montoya 氏は、インタビュー番組に出演。現在のベネズエラのパスポート発行情形について語った。

ベネズエラのパスポートを発行する管轄官庁は「出入国管理局 (Saime)」だが、通常の手続きだとパスポート発行までかなりの日数が必要になる。

そのため、現在は10～15営業日のうちにパスポートを発行する「パスポート・エクスプレス (pasaporte expés)」というやり方が存在する。

パスポート・エクスプレスの利用には多額の費用が必要で、716～720ドルが必要となっている。

なお、外国居住者がベネズエラの在外公館でパスポートの発行を申請する場合は、パスポート・エクスプレスを使わずに15～20営業日で発行されるようになっているという。ただし、費用は216ドルと決して安い金額ではないが、国内でパスポート・エクスプレスを申請するよりも安価になるという。

2024年12月10日(火曜)

政治

「大統領就任日まで残り1カ月

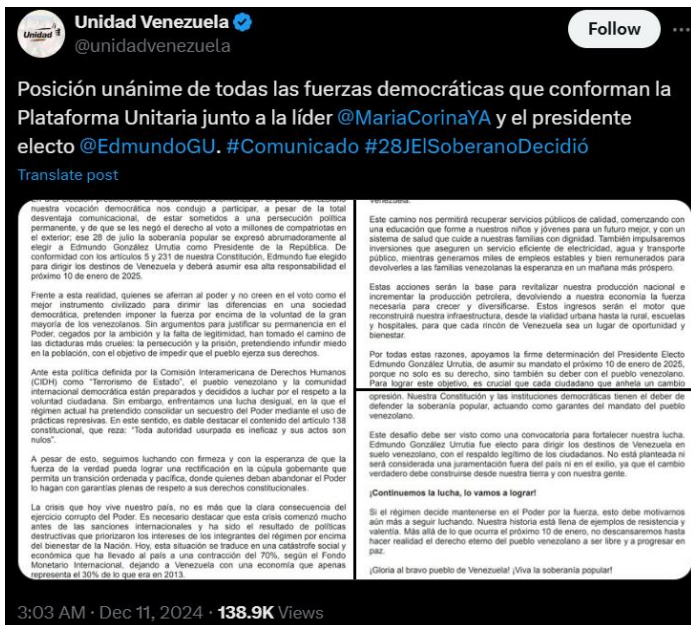
～MUD・MCM ゴンサレス大統領就任支持～」

大統領の新任期は2025年1月10日から始まる。つまり、12月10日は大統領新任期開始の1カ月前ということになる。

大統領就任1カ月前に「野党統一プラットフォーム(PUD)」は、声明を発表。

1月10日にゴンサレス候補が大統領に就任することを支持するとの見解を表明し、CNE による詐欺選挙を批判。「マドゥロ政権が不正に政権を続けることを“自然な事”と感じてはいけない」と指摘。

支持者に対して「全ての国民の努力が必要で、この闘いを支援するよう求める」と呼びかけた。



(写真) Unidad Venezuela

“ゴンサレス候補の大統領就任支持を表明”

野党のリーダーであるマリア・コリナ・マチャド氏(以下、MCM)はEFE通信のインタビューにて、「マドゥロ政権が終焉を迎えようとしている」「政権内で深刻な分裂が生じている」「窮地に立たされているのはマドゥロであると確信している」と主張。

マドゥロ大統領に対して、平和的な政権移行に向けてゴンサレス候補との協議を開始するよう要請した。

「マドゥロ大統領 1月10日に政治集会召集」

12月10日 マドゥロ大統領も「1月10日に大統領に就任する」と宣言。「帝国主義の寡頭政治家が大統領府に戻ることは決してない」との見解を示した。

また、マドゥロ大統領は、1月10日に自身の大統領再任を祝うための政治イベントを開始すると宣言。100万人の動員を要請した。

ゴンサレス候補は1月10日にはベネズエラに帰国し、大統領就任を宣言するとの意思を表明しているが、ゴンサレス候補には逮捕状が出されており、本当にベネズエラに帰国できるのか、帰国した場合、拘束されることなくベネズエラに留まることが出来るのかは不明。

このような事情からか、現時点で野党は1月10日に政治集会を呼びかけていない。



(写真) 国营報道局 (VTV)

「コロンビア ベネズエラとの外交関係維持を志向」

与野党が政治対立を先鋭化させる中、諸外国、特にコロンビア・ブラジルなど未だにベネズエラ政府に関する認識を示していない近隣国の態度は重要と言える。

12月9日 コロンビア議会は、ペトロ大統領がマドゥロ大統領の就任式に参列しないよう求める決議を承認した（賛成75議席、反対27議席）。

これに対して、ペトロ大統領は

「コロンビア憲法に定められている通り、外交政策は大統領の責任事項である」「議会に対して、憲法規定を侵略しないよう要請する」「適切なタイミングで、ベネズエラの大統領就任式に参列するかどうかを発表する」とコメントした。

また、12月10日 コロンビアの Jorge Rojas 副外相は、「コロンビアはベネズエラとの良好な政治関係を望んでおり、政治的なイデオロギーとは関係なく、全ての近隣国との外交関係を維持しなければいけない」

「ベネズエラの大統領選の結果について、どちらの候補が当選したのかの認識はしていない」とコメント。

また、「制裁と経済的な妨害は自国主権を侵害しており、ベネズエラの問題を解決する助けにならず、状況を悪化させている」との見解を示した。

「拘束中の軍事専門家 骨折で病院にて治療」

2024年2月 マドゥロ政権の転覆計画に加担したとして軍事分野のジャーナリストであるロシオ・サン・ミゲル氏が拘束され、SEBIN の施設「Helicoide」に収容されている。

ミゲル氏は非政府系団体「Control Ciudadanos」の代表でもあり、マドゥロ政権は「人権活動家を拘束した」として国内外で批判を受けている。

このロシオ・サン・ミゲル氏が、転倒による右肩の骨折を理由に刑務所から民間病院に移送されたと報じられた。X線検査の結果、右肩に異変が確認されたようで、今後ミゲル氏は病院で治療を受けることになるという。



(写真) Alberto News

“病院で診察を受けるロシオ・サン・ミゲル氏”

「マドゥロ政権 野党活動家を拘束」

12月10日 MCM 氏の政党「Vente Venezuela」は、マドゥロ政権が野党系の活動家 Jesús Armas 氏を拘束したと訴えた。

Jesús Armas 氏は、リベルタドール市の元市議で、非政府系団体「Ciudadania Sin Limites」のディレクターを務めていた人物。

VV は「本日、独裁者は考えが異なる人物を恣意的に拘束した」「政権による抑圧にも関わらず、我々は引き続き声を上げ、ベネズエラ国内の全ての政治犯の解放を求め続ける」とコメントした。



(写真) Albertonews

“拘束された野党系活動家 Jesús Armas 氏”

経 済

「副大統領 中国のソフトウェア企業視察」

訪中しているデルシー・ロドリゲス副大統領(兼石油相)は中国のソフトウェア会社「Kingdee」を視察した。

Kingdee は、170カ国に730万人超の顧客を持つテクノロジー分野では有名な会社だという。

ロドリゲス副大統領が同社を訪問した理由は、ベネズエラと中国が IT・ソフトウェア技術に関する協力深化で合意しており、その合意を進めるために同社が関与するためだという。報道では、Kingdee がベネズエラの経済特区で工場を建設する計画があるとしている。



(写真) ロドリゲス副大統領

「2024年 中国から30億ドルを輸入」

「中国ベネズエラ商工会」の Ángel Freytez 代表は、二国間の経済関係が強化されていると言及。

具体的に「自動車」「農業」「通信」などの分野で経済が深化したと述べた。

Freytez 代表によると、2024年に中国がベネズエラに向けて輸出した金額は30億ドルを超えるという。一方、中国がベネズエラから輸入した金額は7億ドルとした（石油セクターを除く）。

両国の政治関係は良好で、合意の進展により両国の経済関係も接近するとの見解を示した。

「Cedice 11月のインフレ率は14.47%」

ベネズエラのシンクタンク「Cedice Libertad」は3大家族が食事・生活用品・サービスなど61品目を購入し、一カ月生活するための基礎生活費を調査し、公表している。

「Cedice Libertad」は、2024年11月のインフレ率について先月比14.47%増と発表。インフレが加速していると警鐘を鳴らした。なお、ボリバル安が進行したためドル建てで見たインフレ率は先月比0.2%増とほぼ変化はない。

2023年12月～24年11月の12カ月分のインフレ率はボリバル建てで51.27%増、ドル建てで13.69%増だったと発表した。

「Cedice Libertad」によると、24年11月の基礎生活費は、月額2万8,073ボリバル。ドル建てで594.6ドルとした。

以上